

図書館たより

号数	第80号
発行日	昭和63年3月25日
編集発行	島根県立図書館 松江市内中原町52 TEL (0852) 22-5725
印刷	島根印刷株式会社

昭和63年度の予算と事業計画

島根県立図書館長 稲田 健二

高度情報化社会の中で、図書館が、生涯学習の中核的施設として、その機能を発揮できるような予算確保ということで、昭和63年度の予算要求をいたしました。その結果、主要なものとして、次のような予算が認められました。

1. 電算機導入事業 (29,215千円)

電算機の導入については、昨年6月補正予算において、この事業が認められました。申し上げるまでもなく、電算機導入の主たる目的は、資料検索、情報検索、貸出、返却業務、各種目録作成、各種統計等図書館業務全般にわたるトータルシステムを作成し、サービスの向上を図ろうとするものであります。導入機種については、機種選定委員会を設け、種々検討を重ねた結果、富士通FACOM-K-290Rを選定いたしました。そして、本年3月にその設置を終えたところであります。使用するソフトは、LIMS2を当館用に一部改造したものを使うこととしております。今後の電算機の稼働手順は、6月までテストを行い、7月から検索稼働を実施したいと考えております。しかしながら、データ量が当初計画の10万6千冊のうちの約7割しか入力しておりませんので、本年度は、残り約3割のデータ入力とさらに貸出、返却のため諸準備を行い、来る64年4月から本格的なトータル稼働を開始することにしております。

この稼働開始によって、当館が所蔵している図書や図書情報を目録カードを繰ることなく、スピーディ

に活用ができることとなります。そしてゆくゆくは、国立国会図書館や他の公共図書館などのネットワーク化を図り、これらの図書館の情報を活用させてもらうことも考えております。

2. 子供読書普及事業 (1,806千円)

本年度は、第Ⅲ期のモデル市町村を指定する年に当たっております。あらたに指定する所として、伯太町、宍道町、佐田町、温泉津町、瑞穂町を予定しております。今後、これらの町に対して重点的に指導援助を行うこととなりますが、この事業の成否は、いつにかかって指導員、ボランティアの確保ができるかどうかであろうと思います。この点充分御理解をいただき、積極的な取り組みを期待いたしております。

また、第Ⅱ期指定の美保関町、掛合町、金城町、津和野町、柿木村は、最終年次に当り、指定期間が終了することとなりますので、来年度からは、町村の自主活動として継続されることとなります。関係者の御協力により、この子供読書普及事業の輪がさらに大きくなることを願っております。

なお、これら主要事業以外の事業につきましても、前年度の予算を確保することができました。これら事業につきましても、効率的な事業運営を図り、皆さんに親しまれ、愛される図書館を目指して頑張っていきたいと思っております。皆さん方の積極的な御支援、御指導の程お願いいたします。

益田市立図書館

益田市赤城町18-6
TEL (08562) 2-4222

益田市は、太古より栄えたところであります。

わけても、万葉の歌人、柿本人麻呂や、画聖とうたわれる雪舟の伝説とロマンは、脈々と現代文化に引きつがれております。この1月には、雪舟が、絵画の修業をしたといわれる、中国の寧波市と友好親善を進めることができました。

いま、市民の最大の関心は、石見空港の建設です。

昭和68年には、待望のジェット機が飛び、中央との文化交流や、産業の発展に大いに役立つことと期待しております。

さて、益田市立図書館は、昭和27年8月1日、第1次益田市の誕生にあたり、創設されました。

そののち、規模が拡大されるたびに、移転を重ね、昭和50年11月、改装された、社会教育の総合庁舎の2階部分を図書館として開館、現在に至っております。ここは、益田駅から徒歩で5分のところの丘陵地にあるので、市街やはるか日本海を見ることが出来ます。

図書館の広さは、958㎡で、東西に長く、東に児童図書館、西に一般閲覧室があります。このほか館長室、事務室、書庫があります。郷土資料室は、今のところ、一般室に併設していますが、現在郷土資料目録の作製とあわせ、適当な室を設けなければならないと考えております。

記録をたどってみると、昭和51年当時25,000冊の蔵書がありました。12年経過した今日、蔵書数は約50,000冊と開館当時より2倍の増冊となり、いま、図書館の悩みの一つに「施設がせまい」ことです。

まず、学生さんの勉強室がないことです。図書館の一般閲覧室は、書架と閲覧は同室にあって、区切りはありません。一般の方と日常の会話は、「市民のための図書館」をめざすには、欠くことができない大切なふれあいです。ところが、隣りで学生さんが一所懸命勉強しているのに、大人の会話も相すまないということになりまして、つい「静かにして下さい学生さんの勉強のじゃまになるから…」とこうなります。生涯教育とかいわれる今日、図書館もよい施設に恵まれて、その使命を果たさなければならないと痛感しているところです。

図書館の利用範囲は、およそ1kmから2kmといわ

れます。益田市立図書館を利用する方は、おおむね旧市内の方たちです。移動図書館でもあればよいのですが、現実とはとらえず、各地区の公民館に巡回文庫を設けています。地区に500冊程度ですが、地域によっては、児童が非常によく利用していると聞きますと、奉仕者としては、「ブックモービル車」で、あらゆる地点を巡回して、子どもの夢をはぐくんでやらなければ……と「ブックモービル車」の実現を願っております。

児童図書館においては、毎月1回「お話し会」や映画会を開いています。昨年7月からボランティア（古谷文江さん）に、「全国の伝説めぐり」のお話しをしていただいています。目を輝やかせて、真剣に古谷さんの話しを聞き、夢の中に入れておられるその姿をみると「世界は、この子どもたちがいれば平和だ」と信じております。

児童図書室での読書のもよう



予算の限られた中で、62年は、児童図書を重点的に購入しました。1冊1冊に、ブッカーをかけて整理を済ませて、書棚に飾るまでに、かなりの労力を要します。それでも、手間をかけた新しい本は、子どもたちは、不思議なように「大切」にしてくれます。そうしたとき、「ものを大切にする」ことについて、子どもたちと、奉仕者との間に、「ひとつのふれあい」ができたような気がするのです……。

奉仕者は、ますます、努力しなければならないと考えております。益田市立図書館は、「これからの図書館」に期待を寄せて、失礼させていただきます。

本を読む子を育てるものは

(読書体験記入選作品から)

隠岐郡西郷町 田中君代

私が読書好きなのは、若い頃から読み書きのすきだった父の血筋から受け継いだものかもしれない。父は80に近い今でも、どこかに出かける時、小銭の入った手さげかばんと、本を持ち歩いている。そして、私の所に来ると決まって、「ここは本がiggioとあって退屈しない」と、いたって気嫌がいい。とは言っても我が家は夫婦共に教員であって、そのほとんどが専門書と辞典類であり、百姓一筋の父には理解されるはずのない書が多い。

それでも父は、あれこれと頁をめくり写真を眺めたりして楽しそうである。思えば今までの父は、毎日の生活と四人の子供の教育に追まわられて、上を見ては喜していけず、下ばかり見て働きに働きつめ、唯一の楽しみが読書だったのかも知れない。外仕事も無理となった今、やっと好きな本が手に取れる最高の幸せの時になったのだろう。そんな父を思いやってか夫は、「現代」という月刊誌を購入したり、又旅行などで買った週間誌でも捨てることなく持ち帰り「じいちゃんが来たたら見せてやろう」と、大切にしておく、年代や職業の違いで共通話題の乏しい義父に、夫のみせる心ずくしが私にはとても嬉しい。又、日だまりで物静かに読書している父には、老後の安らぎを感じ、いつまでもその姿で居てほしいと願わずにはいられない。

さて、私は親の苦勞子知らずで、今、恵まれ過ぎた読書環境にある。それは、退職後は古本屋を作ると意気込む程、本集めの好きな夫と、転居先が文化会館(図書室)の近くにあること、その上、子育ても終わり他に趣味がないので迷うことなく、読書に没頭できることである。最近、津本陽「やぶれざる教師」を読んだのをきっかけに、この作者の本を読みつめた。今までは、手あたり次第、何でも読めば面白かったが年のせいか好みが変わってきた。恋愛小説からミステリー、そして今はしっかりと個性をもった女の生き方など、しっとりした書が好きになった。同時に読みの方法もかわってきた。面白お

かしく読書中に興奮するものは後に疲れが残るのくせ、読んだ先から書名さえも忘れてしまい余韻がうすい。時々ま心機表現の巧みさ、情景描写のすばらしい文に出会うと、つい立ちどまりくり返し読んだり、ノートにその部分を書写することもある、こんな本は総じて読後感がとてもよい。よい音楽を聞いて、いつまでもその場が立てないあのふんい気であろうか。こんな本に会うと先を急がず少しずつ惜しみ読みすることにしている。また、自分の生きざまと重ね読みをするようになってきた。時には軽薄な自分の言動を恥じたり、こうありたいと羨望の情を強くしたり、やはりこのあたりが、同年代の女性を主人公とした書にひかれる原因かも知れない。読書の楽しみは、良書にめぐり会った時、親しい友に紹介し読後の会話に花咲かせることにもある。人さまざままで同じ本でも、その人なりの読み取りをする所がたまらなく面白い。

こうした心のゆとり、生きるはずみがあるのは、やはり書に親しむ習慣をもったおかげであるので、この小さな幸せを大切にしたい。

私がそうであったように、子供達にも親や教師の後姿から本を手取るようになってほしいと願っている。

「前日の昼休み教室でこんなことがあった。

「先生、何読んでいるの、むずかしい本だね」

「先生、本すきかね」

「その本、おもしろいかね」

「本読むとえらくなるって、お母さんも言ってたよ」

数人の子供が私の手元をのぞきこんで、ガヤガヤとおしゃべりしていた。そのうち何時のまにか静かになってきた。目を上げると、一かたまり、また一かたまりが古びけた学級文庫の本を取り出し頭をくっつけて読みふけていた。中には弁士が1人、読み聞かせている所もあった。私の体験を通して得た、ささやかな読書指導の成果の場でもある。

昭和63年度 県立図書館各種講座

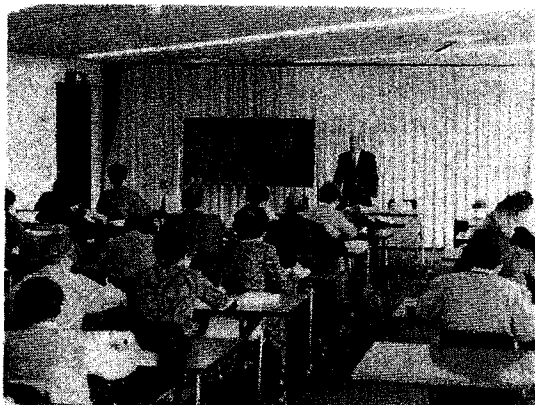
講座名	萬葉集を読む会	古文書を読む会	
		入門	上級
開催日	毎月第2木曜日	毎月第1土曜日	毎月第3土曜日
時間	14:00~16:00	13:30~15:30	13:30~15:30
講師	島根大学名誉教授 小原幹雄	郷土史家 桜木保	島根女子短大助教授 藤岡大拙
募集人員	50名	50名	50名
対象	一般	一般	一般
内容	<p>現存する最古の歌集「萬葉集」の講読と鑑賞を行います。</p> <p>原文の解読にとりくみつつ古代文化の精髓にふれる講座です。</p> <p>テキスト…「萬葉集二」 (新潮社日本古典集成) 新潮社発行</p>	<p>古文書の読解を初歩から手ほどきします。</p> <p>テキスト…毎月当館で印刷したもの 代金は6ヶ月毎に600円</p>	<p>入門講座を終えた程度の読解力をもつ人が対象です。</p> <p>テキストの読解はもとより、史料の背景をなす郷土の歴史に及ぶ講座です。</p>



萬葉集を読む会

この講座は昭和59年5月から開講しています。現在テキストの巻五雑歌を鑑賞中で、講師は一首一首、丁寧に解読され新年には新春の歌を集めて、新しい年にふさわしい雰囲気の中で鑑賞しました。最近では男性の方の参加が増え、和歌一首ずつの解読ですからいつでも和歌の世界に入ることが出来ます。

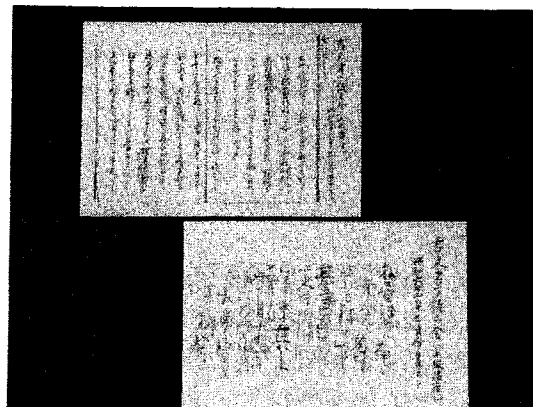
萬葉集講座のもよう



古文書を読む会

自分史、地域史に対する関心が年々高まり、古文書を読んで研究、調査したい人が増えています。又、県内に散在している古文書の発掘、保存の必要にせまられています。当館では、重要性を認識し、保存を推進するため解読できる人を養成する講座「古文書を読む会」を開いています。関心のある方はふるってご参加ください。

古文書テキスト



受講者募集!

- 会場は、いずれも県立図書館集会所です。
 - 受講料は、無料です。
 - 申込方法は、直接、又は、はがきか電話で、受講希望講座名、住所、氏名、電話番号をお知らせ下さい。
- 〒690 松江市内中原町52 県立図書館資料課 (TEL0852-22-5734)

出雲国風土記を読む会	図書館成人読書会	図書館子供読書会	親子で絵本を読む会
毎月第2金曜日	毎月第2火曜日	毎月第4土曜日	毎週水曜日
13:00~15:00	13:00~15:00	14:00~16:00	15:00~16:00
島根女子短大助教授 藤岡大拙		県立図書館職員	県立図書館職員
50名	50名	30名	フリー
一般	一般	小学生	幼児・小学生とその親
わが国でただ一つの完本として残っている「出雲国風土記」を講読しながら古代出雲の実相を把握し、郷土のもつ深い歴史性を理解する講座です。 テキスト…「出雲国風土記」 加藤義成著 報光社発行	参加者で10人前後のグループを編成し、各グループ毎に同一本を読み、意見の交流をします。 グループで話し合うことで、人生や社会に対する見方、考え方が豊かになり、個人の読書生活が深まります。 テキスト…「成人読書会用図書」	毎月グループで同じ本を選んで、各家庭で読みます。翌月、図書館職員を交えて、読んできた本をもとに語り合います。仲間と読むことにより、ふれあいを深め、読書の幅を広げ深めます。 テキスト…「子供読書会用図書」	当館職員が絵本の読み聞かせをします。 親子で、集団読み聞かせの楽しさを味わい、絵本にしたしみがあります。

開催のようす

出雲国風土記を歩く会に参加して

安来市 宮原徳次郎

表題の会に参加しましたが、歩いた各処で私もいろいろの感想をもちました。松江市大草町の出雲国庁跡に立ち、神名樋野(茶臼山)を眺めながら、空想した風景もその一つです。

意宇平野の西北に横たわる神名樋野、神がこもる処とあがめた、この山のふもとに田畑で働く人達。

意宇川の川辺に国庁の棟が並び、北の方には出雲国国分寺が建ち、朝夕にはこの寺の鐘がひびいたではないかと。

国庁跡から茶臼山を望む



子ども読書会の仲間になって

松江市内中原小 石橋 雅子

私は、おと年の4月から今まで、約2年間子ども読書会を続けています。読書会は自分の思ったことやいいたいことがいろいろいえる所です。

係の人はみなやさしく、いっしょになって話を進めてくれます。

今まで話し合った中で一番おもしろかったのは、「どろぼうがっこう」です。内容もおもしろいけどそれに加えて、さし絵もとてもおもしろかったので、よかったです。

読書会での一番の楽しみは、来月の本選びです。今度どんな本に決まるのか。おもしろい本が見つかるか、ワクワクする楽しみがあります。

時々早く終わった時は、おり紙遊びや、カルタとりをして遊びました。

このごろ4年生は、部活などで出られなくなる人がいて、少ないですが、楽しくやっています。これから新しい仲間たちとも是非一緒にやっいていこうと考えています。

昭和62年度収書状況について

—郷土資料室—

当資料室では、県内で出版されるものもとり島根県に関するあらゆる資料の収集整備に努めています。そこで今年度収書の中から主なものを分野別に紹介します。

宗教関係では「出雲信仰」石塚尊俊著 雄山閣刊、「出雲の神々」上田正昭著 筑摩書房刊、「島根の神々」県神社庁編刊、「出雲市内神社誌」藪信男著 出雲市刊、が出版された。

古代史関係は以前多く、「山陰考古学の諸問題」刊行会編刊、「古曾志大谷1号墳と古代の出雲」島根考古学会編 たたら書房刊、「原日本統一政権の成立」安達巖著 新泉社刊、「古代出雲荒神谷の謎に挑む」松本清張著 角川書店刊、「検証古代の出雲」門脇禎二著 学研刊、「石棺式石室の研究」出雲考古学会編刊、が出版された。

考古学関係で、「タテチョウ遺跡発掘調査報告書2」「西川津遺跡調査報告書3」「玉作関係遺跡」「北松江幹線新設工事松江連絡線新設工事予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書」「荒神谷遺跡発掘調査概報3」以上は島根県編刊、「名分塚田遺跡2」鹿島町刊、「出雲原山遺跡発掘調査概報」大社町刊、「佐田町埋蔵文化財詳細分布調査報告」佐田町刊、「日ノ平たたら跡発掘調査報告」「石見銀山遺跡総合整備構想の概要」以上 大田市刊、「邑智郡川本町谷戸経塚木谷石塔発掘調査報告書」川本町刊、「新楨原遺跡発掘調査報告書」匹見町刊、「益田市遠田地区遺跡分布調査報告書1」益田市刊、等が出版された。

中世史では、「図説中世城郭事典3(中国四国編)」新人物往来社刊、「島根地方史論攷」藤岡大拙著 ぎょうせい刊、「南北朝遺文中国四国編1」東京堂刊、が出版された。

地域誌では、「美保関町誌(上下)」「島根町誌」、「島根の地名考」白石昭臣著刊、「島根地理学会40周年記念誌」、「語りつく松江物語」立脇祐十著刊、「中村上自治会誌(加茂町)」、「乙多田郷土誌(三刀屋町)」、「心のふるさと上朝山」(出雲市)、「斐川の地名散歩」池田敏雄著刊、「東いわみ物語」石村勝郎著 大田市観光物産館刊、「かたりつぎ」仁摩町刊、「温泉津・大森銀山50の謎」観光協会刊、「かたりべ」川本町刊、「森脇谷誌」石見町森脇谷講中刊、「浜田の歴史と伝承」浜田史跡探訪会刊、「縁

滅」瑞穂町川本晃著刊、が出版された。

伝記資料として、「子どものための人物島根の歴史」島大教育学部刊、「子どものための石見人物ものがたり」山崎克彦著 郷土文化を育てる会刊、「詠史餘情」須山幸雄著刊、「雲よ湧けいつまでも」石川寿保著刊、「平和の使徒永井隆」福庭書店刊、「大梶七兵衛と高瀬川」石塚尊俊著 出雲市刊、「恒松制治ふるさとを語る」恒松制治著 山陰中央新報社刊、があり、又、「竹下登全人像」「首相・竹下登」他、数冊の竹下氏関係資料が出版された。

行政資料で、県からは、「スパイシィねのくに一市町村基本構想策定の手引き」「ねのくにトラの巻」、市町村からは、「木次町総合振興計画」「第三次大社町総合振興計画」「佐田町総合振興計画」「おおだセーリング21プラン」等が出版された。

教育関係では、「雑賀幼稚園開園70周年記念誌」「福原小学校誌(温泉津町)」「松江一中四十年史」「川本高等学校六十年史」「隠岐水産高等学校創立八十周年記念誌」「大社高等学校体操競技部創立三十周年記念誌」「記念誌至誠寮」「島根県東京学生寮記念誌」「島根の平和教育3」等が出版された。

旧軍隊史として、「浜田聯隊秘史」、「鎮魂の誓」平田市遺族会刊、「波田隊の思い出」が出版された。

自然科学、医学関係では、「島根の滝」佐々木典政著刊、「テレビ天気メモ、面白談義」直田秋治編 山陰放送刊、「中海の野鳥」伯耆文庫刊行会刊、「三瓶山の昆虫」近木英哉著 たたら書房刊、「松乃舎病院史」「松江赤十字病院五十年の歩み」「松江赤十字乳児院30年のあゆみ」「難病研10年誌」「産業医部会10年のあゆみ」が出版された。

産業関係では、「島根県農民運動史戦前編」古藤正福著刊、「日原町農業協同組合史」が出版された。

文学関係では、「津和野物語」三浦浩著、文藝春秋刊、「気概あり」猪野武敏著 新声社刊、「時代屋の女房怪談篇」村松友視著 角川書店刊、「数の風景」松本清張著 朝日新聞社刊が出版され、又、「出雲漢詩散歩」入谷仙介著 たたら書房刊、「ラフカディオ・ハーンの面影を追って」恒文社刊、も出版された。

他の分野では、「島根県民生委員制度七十年史」「仁多町いろはカルタ」等が出版され、雑誌「地平線」が創刊された。

(当館では郷土資料の網羅的収集に努力しています。出版情報等、ご存じでしたら係までご連絡下さるようお願いいたします。TEL 0852-22-5742)

開設3年目の西部読書普及センター

浜田市長沢町1,550-1
TEL (08552)3-6785

○生涯学習のための図書館

新しい時代（生涯学習や高度情報化の時代）に向けて公共図書館は、地域における生涯学習の中核的施設として整備し、さらに地域住民と一体となったふるさとづくりの重要な拠点にする必要があります。この構想は、最近発表された文部省社会教育審議会社会教育施設分科会の中間報告の中でいわれています。公共図書館が住民の生涯学習の核となるためには、各市町村にすぐれたサービスを行う図書館とそれを支える図書館サービスシステムの整備充実が望まれることになります。

○県西部の読書普及活動状況

県下全域への読書普及活動の充実、市町村立図書館、公民館図書室、教育委員会との協力連携の強化などを願い、昭和61年4月県立図書館の西部読書普及センターを浜田市に開設し、東西に長い県域の西半分をエリアとして、県のサービスの拡充を図ってきました。約2年を経過した現在、西部地域の読書普及活動が、市町村の図書館・教育委員会の尽力により着実に前進しつつあることは、当センターの利用状況によくあらわれています。

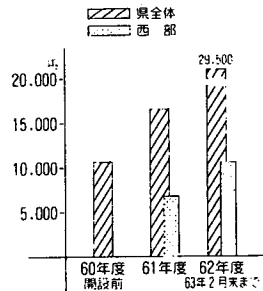
○西部読書普及センターの利用状況

昭和59年度より県立図書館が力を入れて取り組んできている子供読書会活動の普及事業は、62年度調査によれば、全県でおよそ90グループ、2,000人の子どもたちが参加しており、会のお世話していただく指導員の方々も約250人にのぼっております。西部地域でも120人の指導員の方々のもとで約40グループ、900人の子どもたちが活動しています。昨年まで県指定のモデル町であった桜江町や現在モデル2年目の金城町、津和野町、柿木村で活発な活動が行われていますし、浜田市、旭町、美都町などモデルではない市町村でも取り組みがみられます。

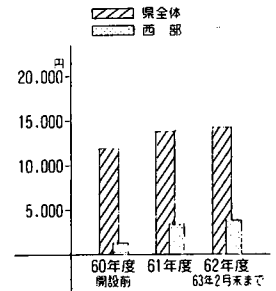
従来からすすめてきた親子読書活動も定着してきており、保育所・幼稚園・地域で身近にすぐれた絵本・児童図書を置くため、当センターの団体貸出を利用していただいています。小規模校の多い地域の特殊性もあり、また子供読書会活動と相まって小学校でも数多く利用されています。成人用一般図書も含めて団体貸出の利用状況は、〈表1〉〈表2〉のとおりで

す。これをもても西部地域での大幅な伸びが目立ちます。

〈表1〉 団体貸出利用状況

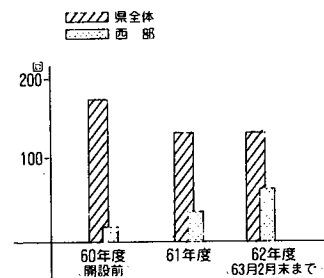


〈表2〉 子供・成人読書会利用状況
(モデル町村利用を含む)



新たに親子読書や子供読書に取り組まれる保育所、幼稚園、小学校、あるいは成人読書会、読書の大切さについての認識を新たにするため公民館などから指導員による講演や助言を依頼されるケースも大幅に増加しつつあります。60年度から62年度にかけての年度別指導員派遣状況は〈表3〉のとおりです。

〈表3〉 指導員派遣回数(県費外)



また、開設前から県立図書館と市町村教育委員会が協同して行ってきた図書センター事業、移動図書館事業による利用も引き続き行っています。これらを含めると今年度63年2月末現在で4万数千冊の図書が利用されています。

読書普及活動の高まりを踏まえ、住民だれもが身近な図書館を気軽に利用できるような図書館未設置町村をなくし、希望する図書・情報が早く確実に手に入るような図書館の組織化をすすめる必要があるように思われます。生涯学習のためには公共図書館は不可欠な社会的条件であり、これからは図書館の整備が、ますます必要とされる時代です。当センターがこうした点でもお手伝いできればと願っています。

読書によって、日頃の生活を豊かなものに、若い気持ちと明るさを保ち続けようと発足した私達の会も9年目をむかえました。毎月1回、夜、公民館で開かれます。発足当時は主婦ばかりでしたが、現在は男の方も参加され、一層幅広い話し合いが出来ます。

初めは「ごんぎつね」「赤いろうそくと人魚」等童話を読み、中原中也、草野心平、与謝野晶子等の詩歌や民話、源氏物語等を郷土史家の森澄泰文氏や大庭良美氏、高校の先生方に御指導をいただきました。県立図書館の本の利用と平行して、「文学津和野」「津和野ものがたり」等郷土に関係した本も読むことにしています。津和野町が制作した貴重なフィルム「鴉外の少年時代」も上映しました。

心に残る本の一つとして、郷土の人、紙衣を着た素朴な人形を作られた河津匂子遺稿集「かほるこ」があります。町の文化面で広く活躍され、郷土の紹介に大きく貢献された方ですが、惜しくも42歳で早世されました。俳句、短歌、随筆を通して、自然を愛し限りなき郷土愛に生き、いかに人形作りに生命をかけたかが伺えます。人情、風俗、四季のうつろい、特にきびしくて長い雪の下での暮らしの身の処し方、自然の恵みに喜びを見出し、山水草木に憧れの心を託された作者の心

読書会グループ紹介
私達のグループで読んだ本
小川本読み会

情に深い感動を覚えます。後に作者をモデルに、誌上やテレビで、違ったイメージの作品が発表され、残念に思います。

芥川龍之介の「羅生門」「蜘蛛の糸」は斬新な趣向と精妙な文章に圧倒されます。「あ、うん」「隣りの女」等のさわやかな感性とユーモアで読者を魅了する向田邦子の作品は、最も多く題材としてきました。渡辺淳一の「女優」瀬戸内晴美の「比叡」は読破それ自体努力を要しましたが、集団読書のもつ長所を十分発揮し、白熱した会になり満足しました。

吉田松陰の獄中生活が書かれた古川薫の「野山獄相聞抄」を読み、私達の楽しみである文学散歩を今年は「椿まつり」を兼ね萩に出かけます。その月の当番が季節の花を生け、ひなまつり・七夕等行事にちなんだ飾りつけで雰田気作りをし、終りは重心にかえり季節の歌を合唱して、次回を楽しみに散会します。

お互い心の窓を開いて話しあえるすばらしい仲間ができて、しあわせに思います。

グループ名 津和野町小川本読み会
会員数 15名
代表者 西田 信子

NEWS

★昭和62年度(後期)市町村読書普及研修会の開催

去る2月22日と26日に県立図書館と西部読書普及センターの2会場で開催された。市町村の読書普及に携わる指導員、ボランティア、教育委員会等の職員200名あまりが参加した。「地区における子供読書会運営の実際」及び「子供読書会用図書とテーマ本」についての事例発表を中心に研修が行われた。終始指導員と子供読書に関心を示されたボランティアの方々の熱意の感じられる研修会であった。

★島根県公共図書館等施設職員研修会

3月2・3日の両日、松江市と浜田市の2会場において、島根県公共図書館協議会主催の職員研修会が開催された。この研修会は、図書館や公民館図書室などに勤務する職員が住民サービスの向上、読書普及推進のために、毎年集って開かれているものである。

今年の参加者は、120名あまりでしたが山口県周東町立周東図書館の山本哲生館長を招き「まちづくりと図書館」というテーマで基調講演をいただきました。その後このテーマについて参加者との意見交換を行い終了した。

★島根県立図書館協議会—新役員きまら—

3月18日、図書館協議会の新役員を迎え、新年度予算と事業計画について説明を行った。来年度からは、電算機が導入され、7月からは検索稼働が実施される予定になり住民サービスの向上が計られることになる。新委員は次のとおりです。

再任 曾田 寛	再任 塔間 武
再任 江角あき	再任 半田 浄
再任 中本辰夫	再任 森脇哲夫
新任 花谷静夫	新任 長野 忠
新任 島田芳雄	新任 吉川隆美

★お知らせ—昭和63年4・5月の主な行事—

4月…第3期子供読書モデル市町村事業の開始
(伯太町、宍道町、佐田町、温泉津町、瑞穂町)
…新設図書センター事業の開始(美保関町、三隅町)
5月…島根県公共図書館協議会総会の開催
…子どものつどい開催(小学校高学年向)
…島根県読書推進運動協議会役員会の開催